

対応関係を理解し、具体物を配置するための指導 ～皿と具体物を使った対応関係の指導事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2407
学習グループ の実態	- 小学部1学年（3名） - ものの有無については理解している。 - 目の前で隠されたものを探したり、イラストと具体物を見比べて提示されたイラストと同じものを取ったりすることができるようになってきている。		
単元(題材)名	『配りましょう』		
学習指導要領 の内容	算数科／小学部1段階 A数量の基礎 イ ものともとの対応させることに関わる数学的活動 (ア) ㊦		
単元(題材)の 目 標 * 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることができる。【Aア】	身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わるができる。【Aイ】	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。【Aウ】
単元(題材)の 計 画	総時数10時間 1 同じマークはどれでしょう（3時間） 2 配りましょう（7時間）		
指導の実際	1について、ノートと袋のマークを対応させる活動では、マークに合わせて同じ具体物、同じマークを付けたものを使用した。児童の活動場面では、マークに注目を促しながら、「同じ」「違う」と言葉で伝えながら、それぞれのマークを確認した。繰り返すことで、りんごのマークの袋にりんごのマークがついたノートを入れるなど、自分の持っているノートと同じマークの袋を見付けることができた。 2について、皿と具体物（りんご、おにぎり等）を教材として、対応させながら置けるようにした。分からなかったり間違えたりしたときに参照できるイラストを準備することで、必要に応じて提示できるようにした。段階的になれてきたら、種類の異なるものを1つの皿に1つずつ置くように課題を設定した。 - 学習を重ねることで、はじめは1つの皿に同じものを全て置いてしまう様子から、1枚の皿に1つずつ、具体物を分けて置くことができるようになり、イラストがなくてもできるようになった。 - 配るものの種類を増やしたときには、はじめに仕切りのある皿やイラストを用いて分かりやすくし、対応関係が理解できるまで支援した。 対応関係が理解できると、仕切りやイラストがなくても課題に取り組むことができた。 - 今後の課題として、できたことを生活場面で生かせるような具体的な場面設定の工夫（お店屋さん、給食等）が考えられる。		

